

いつも に 岳陽



令和7年10月17日 富士市立岳陽中学

4月15日、17日に、3年生対象の全国学力・学習状況調査を実施しました。本校の成果と課題等を掲載した本紙を発行することで、お子様の学びや生活の改善に役立てていただければ幸いです。また、本校職員で調査結果を共有し、授業改善や生徒指導に生かしていきます。

全国学力・学習状況調査とは

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と中学3年生を対象に行われています。文部科学省や教育委員会が全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることが目的です。学校には、児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」は、相互に関係し合いながら育成されるもの」という新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

本校の調査結果と課題

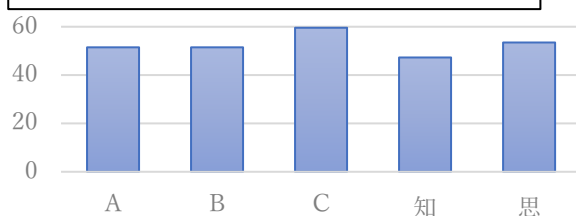
各グラフは、本校の平均正答率です

【国語】

「読むこと」の正答率が高く、文章全体と部分との関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えたり、表現の効果について、根拠を明確にして考えたりすることができます。

一方、文章の構成や展開について、根拠を明確にして考えることに課題があります。

【A】話すこと・聞くこと 【B】書くこと 【C】読むこと
【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現



【A】数と式 【B】図形 【C】関数 【D】データの活用
【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現



【数学】

「データの活用」と「知識・技能」の正答率が高く、必ず起こる事柄の確率や事象に即して、グラフから必要な情報を読み取ることができています。

一方、式の意味を読み取り、数学的な表現を用いて説明することや一次関数 $y=ax+b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることに課題があります。

【理科】

「粒子」を柱とする領域と「知識・技能」の正答率が高く、実験器具の操作等に関する技能や気体の性質に関する知識が概念としてよく身に付いています。

一方、時間的・空間的な見方を働かせて、土地の様子とボーリング調査の結果を関連付けて、地層の広がりを検討し表現することに課題がありました。

【A】エネルギー 【B】粒子 【C】生命 【D】地球
【知】知識・技能 【思】思考・判断・表現



【生徒質問紙】

(1) 「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」を選択した割合が高い項目

- 人の役に立つ人間になりたいと思う割合
- いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う割合
- 先生から、よいところを認めてもらえていると思う割合

(2) 「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を選択した割合が高い項目

- ・新聞を読んでいる割合
- ・将来、理科や科学技術に関係する職業に就きたいと思う割合
- ・地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりする割合(習い事は除く)

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえるとともに、学校教育目標「一生懸命 がんばる」のもと、希望を持ち、明日に向かって粘り強く挑戦できる生徒の育成を目指して、学校運営を進めてまいります。今後とも、本校の教育活動にご理解とご協力をよろしくお願いいたします。